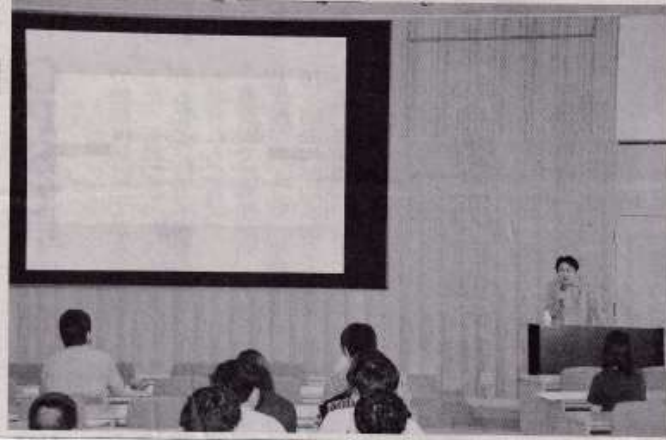


難病への理解深めて みらいプラネットがフ大で講演会

血管奇形という難病を
思う、NPO法人みらい
プラネット（旧県難治性
血管奇形相互支援会）の
有富健会長が4日、宇部
フロンティア大で心理学
部心理学科の2、3年生

と同大大学院人間科学研
究科臨床心理学専攻の学
生計100人を対象に、
障害者（患者）理解の啓
発講演を行った。

社会に出て活躍する次
世代への理解を深める啓
発活動。医学書に掲載さ
れていない難病の認知
と、患者の心に寄り添う



講演する有富会長（宇部フロンティア大で）

気持ちを育み、心理専門
家の役割についての気付
きを促すことが狙い。

血管奇形は先天的な血
管の形成異常とされ、全
身のどの部位にでも発症
する。部位により症状は
痛み、発熱、出血などさ
まざままで、運動機能障害
も珍しくない。原因不明
なものが多く、治療は困
難とされている。

有富会長は「障害のあ
る人の心理と人権―理解
への糸口を見いだすため
の方策」と題して、自身
が経験した差別や偏見に
ついて語った。

医師に症状を理解して
もらえないまま診断書が
ないため、学校や職場で
理解を得られず、「痛い
のは気のせいでは」と言
われ続けたという。北海

道の病院で血管奇形と診
断され、治療法のない難
病と告知されたが「うれ
しくて涙が出た」と振り
返り、「人と同じ普通を
良しとする社会で、違
立場の人の心の痛みを理
解して」と訴えた。

講演を受け、高田晃学
長は「難病や障害に苦し
む人の心に寄り添い、レ
ジリエンス（精神的回復

力）を高める助けとなっ
て」と学生たちと呼び掛
けた。

同大学院2年の秋山珠
和子さんは「難病疾患は
医学領域と捉えていた
が、心理面で支援できる
と気付いた。臨床心理の
分野に進むが、支えるこ
とができる人はもっと存
在する。視野が広がっ
た」と話した。（野村）

宇部日報
令和6年7月8日